

映画で学ぶ 環境問題



ハプニング
(The Happening)

公開：2008年6月
配給：20世紀フォックス
製作・脚本・監督：M・ナイト・シャマラン
出演：マーク・ウォールバーグ
ズーイー・デシャネル
上映時間：90分
ロケ地：ニューヨークのセントラルパーク、他

ここ数年来、世界各国で「ミツバチの集団失踪」という衝撃的なニュースが農業界を駆けめぐっています。日本も決して例外ではなく、すでに「世界的危機により女王蜂の入手が困難」といった状況や「野菜や果実など、各種植物の受粉の危機」という事態をひきおこしています。

現在、アメリカを中心としてこの問題を「蜂群崩壊症候群」(CCD)と名付け、対応するべく専門家による調査が始まっておりますが、原因も対策もまだまだ見えてこない状況です。なんといっても、世界各国で大量の

ミツバチがいなくなったたにも関わらず、その死骸が発見されていない、というのがナゾの中のナゾです。

そしてこのナゾをさらに深めているのが、かのアインシュタインによる恐るべき予言なのですが、それは「もしハチが地球上からいなくなると、人間は4年以上は生きられない。ハチがいなくなると、受粉ができなくなり、そして植物がいなくなり、そして人間がいなくなるからだ。」という、生態系の崩壊に対するものです。

このアインシュタインの予言を冒頭に取り上げた。パニック映画が本

作「ハプニング」です。

タイトルの「ハプニング」とは、「突発的なできごと」という意味で、この映画のストーリーは、ミツバチがアメリカからいなくなったのを皮切りに、ある日突然、緑豊かなニューヨークの公園・セントラルパークで人々が異常行動を取り始めたかと思うと、申し合わせたかのように続々と人々が自殺をしはじめ、異常行動はパーク内だけでなくニューヨーク市中に、そして郊外の町へと広まるに連れ、アメリカ中がパニックになる、という内容です。異常行動の原因は、環境破壊による植物の反乱、といったところのようです。

主役の教師役は、よくあるヒーロー的な俳優ではなく、中堅のマーク・ウォールバーグが演じ、脇役陣もすぐそばにいそうな庶民的な人物ばかり固めて、日常感をあふれ出させています。

脚本、製作、監督を「シックスセンス」で一躍有名になったM・ナイト・シャマランが担当しているせい、日常感の中に、得意のおどろおどろしさが良く出ています。

この作品の公開は2008年6月。製作に着手したのは2007年もしくはそれ以前ということですから、CCDが報告されてすぐにアイデアが浮かんだのでしょうか。これだけの素早さで映画の中でも重要な「異常の原因」を「テロ」ではなく、

環境問題（生態系の崩壊や異常によるもの）としてストーリーを考え出せる点で、アメリカ映画業界人の先見性を見る思いです。

ただ、着眼点そのものは良くても、人々の異常行動を「残虐的な自殺シーン」という見せ方で演出しているせいで、アメリカでは「R指定」・日本でも「PG12指定」という「未成年者の視聴は禁止、もしくは保護者の同伴が望ましい」の指定をおこなっていますので、子どもがいるご家庭での視聴には慎重を期して頂いた方がよいかもしれません。

また、植物の反乱に対する問題解決のために、我々人類が何かをしよう、といった提案のようなものはなく、映画の中でも事態は何ら解決しないままになってしまっていますので、観客の評価の中には失望感が少なからずあるようです。



街で見つけたエコグッズのご紹介 バイオプラスチック

環境を考える上で避けて通れないのが、ゴミの問題です。

特に燃やすと有害な物質を発生させるプラスチックは、燃やさず放置しても分解しないため、地球環境に悪影響を及ぼしています。しかも、遠く離れた極地の野生動物でさえも、流れ着いたゴミのプラスチックを食べるトラブルが年々増加しています。

そこで開発されたのがバイオプラスチックです。その名の通り、生物資源であるバイオマスが原料のため、その多くが生分解性プラスチックとしての性質を持ち、放置した場合でも微生物によって水と二酸化炭素に分解されます。

さらに、その二酸化炭素を元に植物が光合成によってデンプンを作り出し、デンプンからまた生分解性プラスチック



チックの原料を作り出すことができるという循環性にすぐれたバイオプラスチックの原料は、現在のところトウモロコシやサトウキビ、米などが知られています。

良いことづくめのよう

に見えるバイオプラスチック。しかし、まだ難点は多く、特に導入コストが高いことから一般的な普及はまだまだ遠いようです。ただ、長期視点で見れば廃棄を生ゴミと同じように処理すればよいという廃棄コスト安のため、将来的には非常に有望な分野と思われるています。

大日新聞では情報として市販のエコグッズをご紹介しますが、推奨品としてお勧めする製品ではありません。

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。

スタッフ紹介

日頃は営業活動やお電話で対応させていただいておりますスタッフの日常をお伝えいたします。

今年は夏休みをいただき、ソウルへ遊びに行ってきた！ 岡山空港から飛行機でわずか1時間余り、もう私は「外国人」です。同じ飛行機に乗っていた日本人（たぶん岡山県人）が、入国審査待ちの列で「あれ、ここ外国人ってなってるわあ！」と他の列に並び直そうとしていたので思わず「外国人でしょ」と突っ込みたくなりました。

空港や観光地では時折英語、日本語を見掛けるものの街中はほとんどがハングル文字：予想通り言葉もわからず、右往左往しましたが、ソウルタワー、南大門市場などなど観光、ショッピングを堪能。日常生活から離れ、異文化に触れる刺激的な三日間でした。

韓国では環境保護の観点から、ホテルに使い捨て歯ブラシを備品として置くことをかなり前から法律で禁じているそうですが、食堂でも箸は割り箸ではなく金属製のもの、半永久的に使用可能だし、地下鉄やバスの切符は使い回しが出来るカード (T-money) になっていてエコに対する考え方が徹底しているなあと感じました。



技術部 村上 裕美

大日化成でも二年前からチームマイナス6%に参加したことをきっかけにクルビズ、ウォームビズに取り組んだりゴーヤでグリーンカーテンを作るなど、少しずつですがエコに対するみんなの意識が高まっているように感じます。

私も最近マイバッグを持参したりエコドライブを心掛けたりとエコな生活をしていますが、その結果、節約にもつながり一石二鳥です。

近年、環境破壊が叫ばれています。今年は特に長梅雨、竜巻、地震、台風：と自然の脅威を身近に感じる出来事が続いています。一人ひとりの力は小さいけれど、身近なところから変えていくことが大切だと思います。

DAINICHI CHEMICAL CO.,LTD.

●本社
〒571-0030 大阪府門真市末広町 8-13
TEL：06-6909-6755(代) / FAX：06-6909-6702
●東京営業所
〒105-0013 東京都港区浜松町 1-2-11
TEL：03-3436-3801(代) / FAX：03-3436-3803



次号も
お楽しみに

URL：http://www.dainichikasei.co.jp